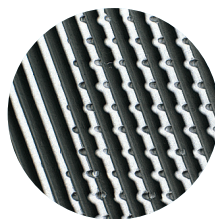


ソフトワーク SOFT WORK FILES

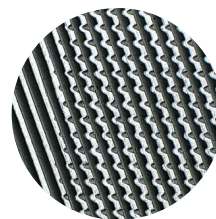
242



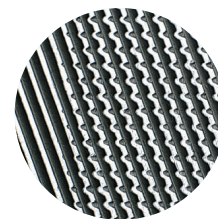
PRICE-242



荒目
Bastard



中目
Second



細目
Smooth

用途

- プラスチック、石膏ボード、硬質ゴムなどの軟質材に。チップブレーカー付。

■ Use : For Prastics, Plaster Board, Hard Rubber, etc. with the function of chip-brakers.



規格表 STANDARD TABLE

平 HAND		半丸 HALF ROUND (SHELL TYPE)							
INCH	mm	W × T mm	kg-doz	BOX pcs	ITEM NO.	W × T mm	kg-doz	BOX pcs	ITEM NO.
6	150	—	—	—	—	—	—	—	—
8	200	19 × 6.0	1.63	6	HI 200 * *	18 × 7.0	1.25	6	HA 200 * *
10	250	25 × 6.5	2.40	6	HI 250 * *	23 × 8.0	1.91	6	HA 250 * *
12	300	30 × 7.5	4.43	6	HI 300 * *	26 × 8.0	2.10	6	HA 300 * *

ITEM No. * * assorted

	荒目 Bastard	中目 Second	細目 Smooth
* *	71	72	73

〈ITEM No. 例〉 ソフトワーク半丸 250 mm中目 : HA25072

〈ITEM No.ex〉 SOFT WORK FILES HALF ROUND 250 mm Second : HA25072

やすり八題 ⑥

荊山 信行

やすりの歴史は、ブックス・バウムによると、「BC2000年にギリシャのクレタ島でブロンズのやすりを発明した」のが最初である。続いてエジプトでは、BC1300年に銅製の鬼目(わさび目ともいう)やすりを、またBC700年には鉄製のやすりを作った。時代は下ってAD1100年には、ローマ人が鉄に浸炭処理をしてやすりを作った、という。

浸炭処理とは、やすりの刃先を硬くするために、炭素を浸入させることである。ちなみに、冶(や)金技術の進んでいた中国では、BC200年には浸炭処理は盛んであったという。

地元の仁方やすりの歴史はどうか。『呉市史』、『仁方郷土誌』などによると、「文政年間または天保年間に鍛冶(かじ)職人が大阪から製法を導入した」。「文政七年に金谷弥助、あるいは嘉平次が大阪立売堀で修業して広めたともいわれている」。「大阪のやすり屋壺井豊次郎に弟子入りし、焼入れ薬の配合を習得した」などなど、諸説紛紛。どちらにしても、仁方やすりは大阪が発祥の地である。

四千年の歴史

大阪で仁方やすりのルーツを調べてみると、文政三年と七年の『商人買物独案内』には、鑿(やすり)鍛冶・山口屋加兵衛の名はあるが、評判のやすり鍛冶壺井豊次郎の名はない。また『大阪商工銘家集』(弘化三年)にも、前述の山口屋とやすりかじ高橋長兵衛、そして同じくやすりかじ志まや惣兵衛の名はあるが、壺井は見当たらない。もともと壺井某は存在しなかったのか、あるいは記録漏れなのかハッキリしない。

やすり企業名に「壺〇〇鉦製作所」というように、壺がついている。これは前述の壺井の壺をとったとも、焼入れに使用する味噌を保存する壺からきているともいわれている。

(広島県立西部工業技術センター主任研究員=呉市)

鉄
工
ヤ
ス
リ

組
ヤ
ス
リ

技
能
換
検
定
ヤ
ス
リ

コ
ー
テ
ィ
ン
グ
ヤ
ス
リ

精
密
ヤ
ス
リ

ダ
イ
マ
ン
ド
ヤ
ス
リ

の
こ
ヤ
ス
リ

波
目
ヤ
ス
リ

鬼
目
ヤ
ス
リ

修
正
ヤ
ス
リ

電
動
ハ
イ
ド
ラ
ヤ
ス
リ

そ
の
他

外
国
製
ヤ
ス
リ

付
録